

MOMOにつき

“なごやかまつりひがし”に出店しました！

★10月12日のできごと

今日は“なごやかまつり”でした。

今年東区制100周年を記念して“なごやかまつりひがし”はいつもの年よりも豪華版！多くの人出にMOMOの綿菓子の販売では長蛇の列でびっくり！！スタッフも綿菓子だらけになりながら何百本も作りました～



くらしの器と秋のごはんー開催

★10月19日のできごと

今夜は“ごま食堂”大熊智子さんの‘秋のごはん’をいただきました。

自家製果実酒やご実家のお父様手作りの旬の野菜を中心とした体に優しい献立に、お箸がすすみます。

その上、うれしい事に今MOMOで開催中の‘くらしの器’展の陶芸家コガナオミさんの器のお土産付きです。

おなかも満たされ、おしゃべりにも花が咲き笑顔でいっぱいMOMOでした。



まちの縁側MOMO (マチノエンガワ MOMO)
秋の風がまだまだ青々し葉に当たり、季節の変わり目を感じられる縁側。
まちの縁側MOMOブログ<http://86862469.at.webry.info/>

大久保康雄の風の記憶

ひょうたんから豆腐が出た？

先日、名古屋市中村区にオープンしたくひょうたんカフェ豆腐店〉に行ってきた。〈NPO法人ひょうたんカフェ〉さんは、昔でいう小規模作業所、いまでいうところの障害者地域活動支援センターである。〈ひょうたんカフェ〉さん代表の橋本思織さんとは、くれよんBOXさんのイベントの時に会いまして挨拶させてもらったことがあり、今年の4月からくれよんさんの職員さんがひょうたんカフェさんに移られてから、その伝手を頼っているいろいろとチラシを置かせてもらったりしている。

豆腐店は以前からやりたいとは聞いていた。以前は宮城県の蔵王から〈すずしろ豆腐〉という豆腐を送ってもらっては販売していたらしいが、職員さんも利用者さんも頑張って修行に励み、とうとう自分たちで手作り豆腐を完成させることに成功した。助成金を得て民家のガレージだったところを改装し、念願の豆腐店をオープンさせたのである。その豆腐のお味は…これが美味しいのだ。スーパーで売っているパック詰め豆腐に比べて、大豆本来の甘みや滑らかさが生きていて、味わいも濃厚、とても舌触りが良い。私は〈ゆず豆腐〉と〈がんも〉を求めたが、一緒に行った友人などあれやこれやと買い求めていた。〈ひょうたんカフェ豆腐店〉は、中村大門を右手に折れてしばらく行き、路地のような細い道を 左に曲がって少し行くとある。店舗だけではなく、昔ながらの引き売りもしているというから、お近くの方はぜひ一度、騙されたと思って求めてみて下さい。



大久保康雄 (オオクボヤスオ)
まちの縁側育み隊の理事であり、紙芝居集団・風穴一座座長を務めるなど、多種多様な顔をもつチェアウオーカー

2008年
11月

今月のウイングのウイング

人のつながりのエンガワ=ライブ感あふれる場所

東京に、アビリティたすけあい (ACT) という市民活動団体がある。NPO法人となって10年目を迎え、会員は7400人に迫っている。そこは地域で安心して暮らし続けるために、世代を超えて人と人が出会い、語り寄り合う場づくりとして多様な活動を展開している。ACTは「住まい・居場所づくりによる地域をつなぐ活動支援」のための助成金も出している。最近その助成スタート集会によばれて、「まちの縁側は小さな公共空間」の幻燈会と座談会を行った。集まった方々はみんな暮らし方・生き方についての素朴でかつ鋭い問題意識をもちつつ、自らのやれることを地域でやってみようの意欲にみちあふれていた。

当日の座談会の主な論点は、生き生きとした活動の継続の力を育てるにはどうすればいいのか？であった。このことに対して次のようなポイントがあることを提起したが、参加者の反応を通して表現してみよう。

第1に、「コンセプトを確認しつつづけることの大切さを確認できた。」この場合のコンセプトとしての「『縁が輪』の発想(図参照)は、目からウロ

コでした」の意見にあらわれているように、ゆるやかなエンガワ視点の有効性が明らかにされた。

第2に、「MOMO、クニハウス、ピンポンハウス、ユーコート・・・どれも人間の知恵があれば面白いことが出来ると希望がもてました」とあるように「1人1人の自発性と弱さをカバーする人が集まるこ



との大切さ」への気づき、そして「まちをつくるのではなく、育てる、育むということが印象に残りました。弱さを補いあうこと、得意なことを持ち寄ること等」「いつも新鮮なプログラムへの挑戦が必要」であり、「えんがわ=ライブ」であるというとならえ方の大切さが強調された。

第3に、「継続のために"ほめあう"。ここからもっている力をひきだしてあげることができる。」「おでんのようなまざりあい(思いを同じくする人も違った立場の人もまざりあって)によるパワーの高揚の重要性。

第4に「わずらわしさを楽しみに変えること。だんだんわずらわしいことが少なくなってきました」と高齢の女性の方がいわれたのは印象的であった。

第5に、「出逢う大切さ。ご縁」の力への確信。ある市議員の方は「報酬の1/5にあたる家賃をつぎこんで10年たつが、何のためにスペースを維持しているのかわからなかった。しかし、今日の話で、小さいながらも、生きづらい人や若者が集まり、いっしょにごはん食べたり、思いつきのミニ企画したり、ささやかながらもちの縁側であったのだなあと感じました。」といわれたように、日本各地のエンガワの連携と相互励ましあいの機会の必要性が喚起された。

「今、自分は人とのかわりから離れていきたいと思っている時だったので、又、あらためて考えていきたいと思います」の意見にふれて正直うれしかった。やはり人のつながりのエンガワが新しい発展につながり予想外の方向に進化するんだということを改めて確認した。とともに、この日の人々の反応・意見はすべて、まちの縁側育み隊の自己診断でもありエールでもある、と思う。

※この原稿は延藤安弘のブログ

(安弘思遊記<http://enside.exblog.jp/>)の再掲です



延藤安弘 (エンドウヤスヒロ)
NPO法人まちの縁側育み隊代表理事。愛知産業大学大学院教授。錦二丁目まちの会所・世話人代表。

